

研究・調査報告書

| 報告書番号 | 担当 |
|---|----------------|
| 365 | 滋賀医科大学福祉保健医学講座 |
| 題名 (原題/訳) Alcohol drinking patterns and risk of type 2 diabetes mellitus among younger women. 若年女性における飲酒パターンと2型糖尿病の危険性について | |
| 執筆者 Wannamethee SG, Camargo CA Jr, Manson JE, Willett WC, Rimm EB. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) Arch Intern Med. 2003 Jun 9;163(11):1329-36. | |
| キーワード 飲酒パターン ・ 2型糖尿病 ・ 若年女性 | |
| 要 旨 <p>目的；若年～中年女性における飲酒パターンと2型糖尿病の発症の関係について調べることを目的とした。</p> <p>方法；1989年の時点で冠動脈疾患や脳卒中・ガン・糖尿病の既往がなく、生活習慣と病歴について詳細な質問表に完全に回答した109690人の25～42歳の女性を対象に前向き研究を行った。</p> <p>結果；10年間の経過観察期間中、935例の2型糖尿病の新規発症をみた。BMI・喫煙歴・運動量・糖尿病の家族歴を交絡因子として調整したところ、飲酒量と2型糖尿病発生リスクの間に2次曲線的な関連を認めた(2次曲線の傾向性の$P=0.003$)。非飲酒者と比較して、2型糖尿病発生における他項目補正後の相対危険度(0内は95%信頼区間)は、アルコール消費量0.1～4.9g/日のグループで0.80(0.66～0.96)、アルコール消費量5.0～14.9g/日のグループで0.67(0.50～0.89)、アルコール消費量15.0～29.9g/日のグループで0.42(0.20～0.90)、アルコール消費量30.0g/日以上グループで0.78(0.34～1.78)であった。更に糖質摂取量、トランス型脂肪酸摂取量、飽和脂肪酸摂取量、繊維質摂取量などの食事要因を補正してもこの結果は変わらなかった。ワインやビールを少量から中等量飲むと答えた女性で2型糖尿病発症のリスクを軽減するという逆相関関係をもっとも著明に示した。一方、蒸留酒を30.0g/日以上飲む女性のグループでは非飲酒者に比較して、糖尿病発症リスクが有意に増加した。(補正後の相対危険度2.50、95%信頼区間1.00～6.23)</p> <p>まとめ；25～42歳の女性では、少量から中等量の飲酒は2型糖尿病の発症リスクを低減させる効果があるが、大量飲酒はそのような効果を認めない。</p> | |